

# 夏大豆新品種「ヒゴムスメ」について

百島敏男・熊本 司・吉富 進

(佐賀県農業試験場)

MOMOSHIMA, T., KUMAMOTO, T. and YOSHIDOMI, S.  
On the New Variety of Summer-type Soybean "Higomusume"

I 育種目標：筆者らは九州の夏大豆の収量を上げるため草型の大きい多収品種を育成してきたが、大型化をはかれば一般に熟期がおそくなるため、早播きしないと早魃害、台風害、雨害を被り、また害虫の被害が多く減収する場合さえでている。したがって早播きを前提としない早生種、または後作物の作付けできる早生種の要望が今なおお少くない。そこで筆者らは早生、多収、良質（高蛋白）品種を育種目標とした。

II 来歴：1953年佐賀県農業試験場において新3号（新潟産）を母とし白莢1号（熊本産）を父として人工交配を行い、以後選抜固定につとめた。1960年から生産力検定を行ない、1962年F<sub>2</sub>より西海17号の系統名を付して関係各県に配付した結果、好成績をあげたので、1965年4月「大豆農林40号」に登録され「ヒゴムスメ」と命名された。

III 一般的特性：ヒゴムスメはIIaに属する夏大豆

で白莢1号より5～6日おそく、コガネダイズより1週間早く九州の夏大豆では早生の晩に属する。生育旺盛で、早生種にもかかわらず草型が大きく、莖長は高く、莖は太く、分枝も多いが倒伏に強い。花は紫色、莢は褐色、毛茸は褐色で密生している。子実は球型で黄白色、粒揃いが良く、臍色は淡褐色、粒大は九州の夏大豆の内では中粒に属する。蛋白含量は特に高い。葉焼、紫斑、銹病等の抵抗性はいずれも中程度であるが、現在の夏大豆栽培地帯では心配はないと思われる。白莢1号と同熟期の早生種であることからダイズサヤタマバエの被害は少なく、シロイチモジマダラメイガについても最も加害する第3化期の発蛾最盛期が8月上旬であるので、8月15日までに成熟する品種は殆んど喰害されない。ヒゴムスメの熟期はこの範囲に入ることから被害は少い。

第1表 ヒゴムスメおよび両親の特性

品 種 名	開花期 月 日	開花 日 数	成熟期 月 日	生育日数	莖長 cm	節 数	分枝数	莢 数	百粒重 g	胚軸色
ヒゴムスメ	6. 17	63	8. 11	118	46.5	11.8	3.9	71.9	16.3	紫 色
♀ 新 3 号	6. 29	63	8. 22	117	55.1	14.9	4.1	77.4	21.2	〃
♂ 白 莢 1 号	6. 17	64	8. 5	113	40.3	12.2	3.0	54.6	16.1	〃
比コガネダイズ	6. 21	67	8. 18	125	48.9	12.7	3.3	98.8	15.5	〃

品 種 名	花 色	莢 色	毛茸ノ色	毛茸ノ多 少	粒 形	粒 色	臍 色	品 質	粗蛋白 含量%	粗脂肪 含量%
ヒゴムスメ	紫 色	褐 色	褐 色	中	球 形	黄白色	淡褐色	上	44.74	19.48
♀ 新 3 号	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	中	—	—
♂ 白 莢 1 号	〃	淡褐色	白 色	〃	〃	〃	褐 色	上	44.52	17.69
比コガネダイズ	〃	褐 色	褐 色	〃	〃	〃	淡褐色	上	40.48	20.58

Ⅳ 生産力：ヒゴムスメ（第2表）は九州の夏大豆の白莢1号（早生種）より5～6日おそいが収量では60%以上増収し、1週間以上おそいコガネダイズと殆んど収量差がみられず、年によつてはかえつて多収なことさえあり、年次による差が少なく作柄が安定している。畦巾50cm、株間10cm、3本立てで密植試験を行なつた（第3表）結果、この程度の密植では生育に差はないが葉葉は著しく繁茂し、天候次第では倒伏する品種がある。ヒゴムスメは倒伏が少なく、また倒伏時期がおそい。密植による増収率はコガネダイズに及

ばないが白莢1号より50～60%多収であり適応性は高い。晩播試験（第4表）は機械化栽培を想定して麦刈りあとに播種した。したがつて生育は促進され草型がいちじるしく小さくなつた。晩播しても早生種の白莢1号は減収率が少ないのに反し、晩生種のコガネダイズは減収率が大きい。ヒゴムスメは両品種の中間にあたるが白莢1号より勿論、コガネダイズよりも多収であつたことから晩播に対する適応性はこれら品種よりも高い。

第2表 生産力検定試験成績（1960～1964までの平均）

品 種 名	播種期 月 日	開花期 月 日	成熟期 月 日	生 育 日 数	茎 長 cm	節 数	分枝数	莢 数	アール当り		標準比率 %
									全粒重 kg	精粒重 kg	
ヒゴムスメ	4. 15	6. 17	8. 11	118	46.5	11.8	3.9	71.9	21.4	19.3	168
白 莢 1 号	4. 15	6. 17	8. 5	113	40.3	12.2	3.0	54.6	13.5	11.5	100
コガネダイズ	4. 15	6. 21	8. 18	125	48.9	12.7	3.3	98.8	21.7	18.5	161

第3表 密植適応性検定試験成績

品 種 名	区 別	播種期 月 日	開花期 月 日	成熟期 月 日	アール当り		疎 対 比 %	比較対比 %	百 粒 重 g	倒 伏
					全粒重 kg	精粒重 kg				
ヒゴムスメ	疎植	4. 14	6. 14	8. 6	18.1	16.4	100	153	13.5	なし
		4. 15	6. 14	8. 5	20.4	18.9	113	155	13.5	なし～少
白 莢 1 号	疎植	4. 14	6. 12	8. 1	11.8	10.2	100	100	15.7	なし
		4. 15	6. 13	8. 1	13.2	12.8	112	100	14.5	なし～中
コガネダイズ	疎植	4. 14	6. 18	8. 14	20.1	17.4	100	170	13.0	なし
		4. 15	6. 17	8. 14	26.2	23.9	130	198	14.5	なし～少

第4表 晩播適応性検定試験成績

品 種 名	区 別	播種期 月 日	開花期 月 日	成熟期 月 日	生育日数	アール当り		早期対比 %	比較対比 %	百 粒 重 g
						全粒重 kg	精粒重 kg			
ヒゴムスメ	早 区	4. 24	6. 19	8. 9	107	16.2	14.6	100	159	15.1
	晩 区	6. 12	7. 21	9. 6	86	13.9	11.7	86	129	13.4
白 莢 1 号	早 区	4. 24	6. 16	8. 6	104	10.2	9.1	100	100	16.1
	晩 区	6. 12	7. 20	9. 5	85	10.8	8.1	106	100	14.6
コガネダイズ	早 区	4. 24	6. 24	8. 17	115	16.9	15.0	100	106	14.5
	晩 区	6. 12	7. 22	9. 10	90	12.6	11.0	75	117	13.1

Ⅴ 品質：子実は球形で豊門、黄白色である。臍は淡褐色で小さく外見的な品質は極めて良い。しかも粗蛋白含量がきわめて高い。農林省食糧研究所における豆腐の適応性検定試験の結果は第5表の通りで、豆腐重量（収量）は白莢1号に匹敵し、石豆のない点ではむしろすぐれている。

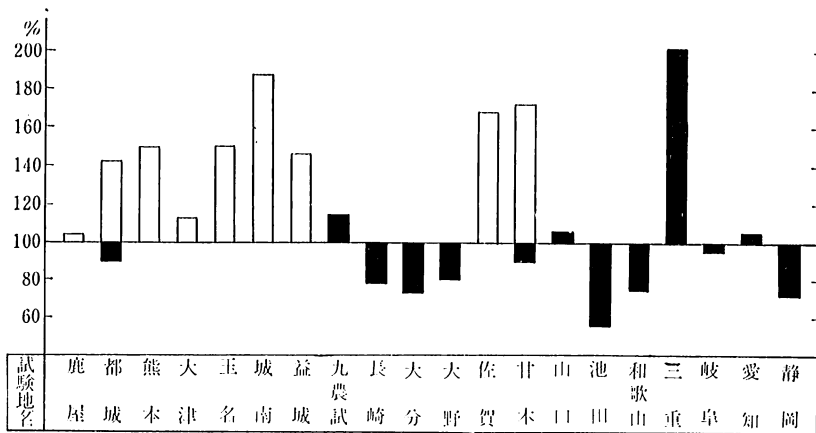
Ⅵ 適地：配付先における試験成績（第1図）からみて、早生種に比べると確かに多収であるが、晩生種に比べると必ずしも増収していない。したがつてヒゴムスメは熊本県を始め早生種地帯に適する。しかしヒゴムスメは熟期が早いので害虫の被害が少ないうえに収量では晩生種に比べさほど劣らないことから、安定

第5表 豆腐適応性検定試験成績（食糧研究所）

項目	品種名			
	ヒゴムスメ %	白莢1号 %	サヨヒメ %	コガネダイズ %
粗蛋白含量	38.2	37.1	39.0	36.3
〃（乾物中）	45.5	41.8	43.8	41.0
粗脂肪含量	17.1	15.0	16.7	17.7
〃（乾物中）	19.0	16.9	18.7	20.0
豆乳蛋白質分	3.11	3.00	3.12	2.85
〃 固形分	6.23	6.09	6.07	5.92
豆腐の弾力性	良い	良い	良い	良い
〃 味	〃	〃	〃	〃
〃 色(Y)	59.5	58.0	57.2	57.2
抽出率	60.1	57.3	58.1	56.6
凝固率	81.4	77.3	80.2	79.2
収率	48.9	44.3	46.5	44.8
100粒中石豆数	なし	28	なし	17

品種として晩生地帯でも利用の余地があり、輪作体系上便利な品種で適応性範囲は極めて広い。ヒゴムスメは1965年熊本県において奨励品種に、佐賀県で認定品種に採用された。

第1図 配付先における「ヒゴムスメ」の生産力



注：白棒は早生種，黒棒は晩生種との比率